

SEMINAR HOUSE NEWS

セミナーハウス・ニュース

No.172
2007年5月発行

財団法人 大学セミナーハウス 〒192-0372 東京都八王子下柚木1987-1 TEL.042-676-8511 FAX.042-676-1220

<http://www.seminarhouse.or.jp>



巻頭言

「今は昔」

常務理事 佐藤 保

私が最初に大学セミナー・ハウスを訪れたのは、今から34年前、1973年（昭和48）6月29日の金曜日であった。この日付は同年の手帳によって確かめたもので、6月29日の書き込み欄に、「八王子セミナー・ハウス泊」と記されている。手帳にはほかにも宿泊予定の部屋の「教師館5」という文字が見える。

その年の4月、國學院大学からお茶の水女子大学に移ったばかりの私は、当時お茶大で実施していた新入生オリエンテーションに初めて参加したのである。

顧みれば、73年はセミナー・ハウスがオープンしてから8年目、国公立の枠を越えた大学間交流というセミナー・ハウス本来の活動が、最もさかんに行われていた時期である。たとえば、65年（昭和40）7月、開館と同時に始まった大学共同セミナーは、教員と学生が寝食を共にして討論するという、まさにセミナー・ハウスならではの企画であり、当初は年平均6回、毎回100名前後の学生を集めて行われたが、73年にはなんと1年間で11回も開かれた。これが大学共同セミナー開催の最多記録である。大学共同セミナーに併行して大学教員懇談会や国際留学生セミナーが相継いで開かれるなど、まことに70年代は大学セミナー・ハウスの最盛期であった。

もちろんこれにはそれ相当の理由があった。ほかでもない、68年（昭和43）頃から激しくなった大学紛争が、教員と学生を大学の教室からセミナー・ハウスに引き寄せたのである。当時のセミナー・ハウスは、学問と真理の探究に燃える教員と学生のあつい熱気に包まれていた。

ところがそれも今は昔、90年代以降、セミナー・ハウスのかつての熱気は消え失せて行った。理由は、紛争が沈静化したあと、各大学は単位互換や大学連合などの教育改革を積極的に推し進めてセミナー・ハウスのお株を

奪う一方、セミナー・ハウスは企画のマンネリ化や施設の老朽化が進んだこと、また社会的には若い学生たちの意識の変化等々の諸要因が重なり、結果としてセミナー・ハウスの利用客が減少していったからである。皮肉なことに、かつてセミナー・ハウスで交わされた議論が広まり現実化するにつれて、セミナー・ハウス自体の存在意義がしだいに曖昧になってきたのである。

幸いセミナー・ハウスは近年やや元気を取り戻しつつある。これはひとえに、ここ数年来の理事長・館長の積極果敢な経営手腕とすぐれたリーダーシップ、並びに職員諸氏の懸命な努力に負うところがきわめて大きい。実は、セミナー・ハウスの存亡を真剣に議論したのはつい3、4年前のこと、存亡の危機は「今は昔」どころか、今なお続く深刻な問題なのである。この危機を確実に乗り越えるためには、施設・設備面の改善が進んでいるいまこそ、ハード面の充実と併行して、各種セミナーや講習会などのソフト面の改善と充実を図らなければならない。そのためには、それぞれの企画運営に当たる委員諸氏の力がぜひとも必要である。

セミナー・ハウスに満ちあふれていたかつての熱気と同じものは、状況が変わったいま望むべくもない。しかし、たとえ活動は地味であっても、人々が必要とするセミナー・ハウスであることが最も肝要なこと。皆さん方のご協力ご鞭撻を切にお願いしたい。

●佐藤 保（さとう たもつ）プロフィール

学校法人二松学舎 理事長

専門：中国古典文学

略歴：1953年 新潟県長岡高等学校卒業
1957年 東京大学文学部中国文学科卒業
1962～65年 オーストラリア国立大学研究助手・研究員
1967～73年 國學院大学専任講師・助教授
1979年 お茶の水女子大学教授
1982～83年 同大学学生部長
1988～90年 同大学文教育学部長
1991～92年 北京日本学研究中心主任教授
1997～2001年 お茶の水女子大学学長
2000年～ 財団法人大学セミナー・ハウス常務理事
2002年～ 二松学舎大学大学院教授
2005年2月～ 現職

社会活動：東方学会評議員等

第114回理事会・第92回評議員会

実施日：平成19年3月22日（木）
場 所：桜美林大学新宿キャンパス

『理事会』

出席者11名、書面による出席者11名、合計22名

『評議員会』

出席者11名、書面による出席者45名、合計56名

平成19年度事業計画及び平成19年度一般会計収支予算を中心に審議がなされ、いずれも原案通り承認されました。

主な協議事項及び報告事項は次のとおりです。

◎評議員の選任について

次のとおり評議員が選任されました。任期は、平成19年3月22日から平成20年5月31日までです。

三木 千壽 東京工業大学副学長
五百旗頭 真 防衛大学校校長
井上 博行 町田・デザイン専門学校理事長
二之湯 智 参議院議員

この結果、理事で評議員を兼務されていた次の評議員の方々は、平成19年3月22日付で兼務を解消することになりました。

安西祐一郎 大橋英五 後藤祥子 小宮山宏
白井克彦 鈴木典比古
永井和之 平林千牧 鷲山恭彦

◎賛助会員校の入会について

次のとおり、賛助会員校の入会申込が承認されました。

財団法人 国際教育振興会（日米会話学院）
理事長・院長：大井 孝
所在地：東京都新宿区四谷1丁目21番地

◎平成19年度事業計画書・平成19年度一般会計収支予算書について

平成19年度事業計画・収支予算については、原案通り承認されました。

収支予算書は、別表の通りです。

なお、宿泊利用者数は、30,000名を見込んでいます。

◎報告事項について

事務局から配布資料に基づき、「利用状況」「主催セミナー事業」「平成18年度決算見込」「グランド造成工事」「寄付行為の改正計画」「運営幹事会の発足」など、9項目が報告されました。

これらの報告事項の中で特記事項は次の通りです。

- ・「利用状況」については、宿泊利用者数が「さくら館」効果で29,000人とかなりの増加が見込まれています。
- ・「寄付行為の改正計画」については、平成19年度5月開催予定の理事会・評議員会に「寄付行為一部改正案」を上程する予定です。
- ・「運営幹事会の発足」については、協力会員校の意向を反映した事業運営を図るため、役員が所属する大学の事務局職員等で構成する「運営幹事会」を立ち上げることが報告され、了承されました。

今後、関係協力校の協力を得て、平成19年5月中旬に、第一回運営幹事会を開催する予定です。

平成18年度第3回常務理事会

実施日：平成19年3月22日（木）
場 所：桜美林大学新宿キャンパス

（出席者）

佐藤東洋士理事長はじめ常務理事8名

（主な議事）

第114回理事会と第92回評議員会への上程する議題について協議しました。

1. 平成19年度事業計画及び平成19年度一般会計収支報告。
2. 事務局からの報告事項の中の主要項目である、寄付行為の一部改正及び募金計画について。
3. その他。

平成19年度 収支予算書総括表

（平成19年4月1日～平成20年3月31日） 単位：円

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額
基本財産利息収入	1,500	1,500	0
会費収入	53,600,000	55,800,000	-2,200,000
一般事業収入	145,590,000	127,230,000	18,360,000
食堂事業収入	69,250,000	63,109,000	6,141,000
留学生会館収入	12,150,000	12,150,000	0
セミナー会費収入	6,100,000	6,220,000	-120,000
補助金等収入	0	0	0
寄付金収入	1,620,000	1,570,000	50,000
雑収入	7,447,800	6,822,500	625,300
事業活動収入計	295,759,300	272,903,000	22,856,300
①管理費支出			
人件費	17,375,000	30,042,000	-12,667,000
施設管理費	34,364,030	24,978,000	9,386,030
一般管理費	17,798,594	15,910,000	1,888,594
①管理費支出計	69,537,624	70,930,000	-1,392,376
②事業費支出	115,124,750	111,294,000	3,830,750
人件費	44,363,000	33,240,000	11,123,000
一般事業費	65,461,750	72,544,000	-7,082,250
学生セミナー事業費	500,000	600,000	-100,000
教職員セミナー事業費	3,600,000	3,560,000	40,000
その他のセミナー事業費	1,200,000	1,350,000	-150,000
③食堂事業費支出	61,969,400	61,161,000	808,400
食堂事業直接費	27,750,000	25,294,000	2,456,000
人件費	25,946,000	27,330,000	-1,384,000
食堂事業間接費	8,273,400	8,537,000	-263,600
②+③事業費支出計	177,094,150	172,455,000	4,639,150
事業活動支出計	246,631,774	243,385,000	3,246,774
事業活動収支差額	49,127,526	29,518,000	19,609,526
投資活動収入の部			
収入			
什器備品売却収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
投資活動支出の部			
支出			
什器備品売却支出	0	0	0
減価償却引当資産取得支出	10,000,000	0	10,000,000
投資活動支出計	10,000,000	0	10,000,000
投資活動収支差額	-10,000,000	0	-10,000,000
財務活動収入の部			
収入			
長期借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
支出			
長期借入金返済支出	25,657,000	23,191,000	2,466,000
特定預金支出	4,000,000	3,000,000	1,000,000
財務活動支出計	29,657,000	26,191,000	3,466,000
財務活動収支差額	-29,657,000	-26,191,000	-3,466,000
予備費支出	2,000,000	2,000,000	0
当期収入合計	295,759,300	272,903,000	22,856,300
当期支出合計	288,288,774	271,576,000	16,712,774
当期収支差額	7,470,526	1,327,000	6,143,526
前期繰越収支差額	6,626,292	5,299,292	1,327,000
次期繰越収支差額	14,096,818	6,626,292	7,470,526

（注）1. 収支予算書は当年度から「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に示された3区分の様式により作成している。
2. 前年度予算額は、前年度の収支予算書の科目を当年度予算書の科目に対応させて組替えて表示している。

会費をありがとうございました

平成18年10月～平成19年3月 (敬称略)

安達義明、長内 了、松田千鶴子、並河一道、小和田 恆、小林善彦、平澤茂一、出居 茂、松岡八郎、永井克孝、森 玲子、木畑洋一、柏木恵子、小田中敏男、青柳清孝、高橋三郎、酢屋善元、篠崎啓助、田村皖司、鈴木順子、滝口 亨、小田 滋、牧内 操、久留都茂子、井手久登、福田隆義、田島澄江、宇野重昭、熊川 忠、伊藤 玄三、小林澈郎、大須賀節雄、梶木隆一、山下幸夫、得田保雄、米満 澄、平野健一郎、田村光三、青木生子、藤永 保、清水 護、今井哲哉、近藤 保、川鍋正敏、栗田 寛、尾田幸雄、白井克彦、有山正孝、慶伊富長、末松安晴、池田 温、森田信義、甲斐 隆、田村 恭、小西正捷、市川節子、森 久、生山智己、澤 孝一郎、戸張よし子、吉田 豊、横沼健雄、堀井啓幸、斎藤信房、三浦安子 岡崎 正、有馬弥子、青柳総太郎、福井憲彦、増田義男、川端香男里、三浦永光、後藤敏明、石井 明、大口勇次郎、平木典子、天野成光、山田圭一、中野斉子、石田孝夫、大澤恵美子、慶谷壽信、渡辺忠胤、鈴木 皇、大森東亜、松山正男、吉田光孝、小山弘志、松本幸一 武田昌輔、柳澤富雄 乾 崇夫、海老沢信一、茅野良男、小谷正博、根岸愛子、池井 優、石川道夫 新井 明、高橋昭三、上谷琢之、佐藤音彦、北村嘉行、北原文雄、塚本利明、蓮見音彦、金子ハルオ、中村正一、手塚千鶴子、富沢賢治、佐藤 光、川崎正三、藤井良治、井原恵治、八木江里、新保清子 福永寿己夫、小林一彦、中村妙子、泉 敏彦、山口俊夫、箕輪成男、柳父閑近、高松正昭、笠 耐、肥前榮一、磯 直道、風間邦光、島 美喜子、宮腰 賢、勝見允行、鳥海保子、小幡史朗、土井恵美子、柘植敏治、寿里 茂、村上 健、平野由紀子、柴田泰比古、絹川正吉、福田一郎、白川和雄、出光直樹、高瀬文志郎、吉沢四郎、佐藤公孝、福西 基、池原義郎、大西 清、鈴木三男吉、森 昭彦、田中喜久昭

会員からのメッセージ

- ◆海外出張などが重なり、年会費の納入が遅れました。お許しください。64歳の誕生日を無事迎えることができたことを千人会のお知らせで気がつくという何ともソコソコモノです。 長内 了
- ◆誕生日カード有難うございました。82歳となりましたが、おかげさまで相変わらず好きな読書をして暮らしております。教育改革が問題となっております今日、大学セミナーハウスの皆様には御健勝の上、御活躍下さいませよう御願ひ申し上げます。 松岡八郎
- ◆開館40年誠におめでとうございます。妻の叔父、前田護郎と共に度々伺った頃を思い出します。かわいい「キノコ」のような建物が散在していて鮮烈な印象でした。「個」が「集合」へと変るのも、又その逆も体験できるのは誠に貴重なことと有り難く存じます。 永井克孝
- ◆研修施設さくら館のオープンおめでとうございます。セミナーから連絡のお手紙が来るたびに、なくなれた岡先生を思い、身のひきしまる気持ちがします。 森 玲子
- ◆美しいカードを本年も有難うございました。「教育基本法」の改正を急務とする風潮が「安易に」「ムード的に」広がっていることを憂えております。「教育法」にこめられている理念は、世界教育史の観点から見ても、重要かつ誇るべきもので、今日、なお日本はもとより、世界的に見ても実現途上にある理想であります。こうした質的意義をよく理解した上の論議を望みます。 鈴木順子
- ◆日野原重明という人物にふれ、その計り知れない生命力に大いなる戸惑いを感じています。今はただ遙かなる存在するその人物像のごくごく一片にもたどりつけたらという願いをもって生きています。八王子大学セミナーハウス（7泊8日長期研修館にての合宿）は私の大学教育の原点であり、最終到達点でした。 田村皖司
- ◆新しい大学セミナー・ハウスの指導体制のご発展を祈っています。 宇野重昭
- ◆さくら館の写真入りの誕生日カードをあ

- りがとうございました。開かれた研修施設として役立っていただけることを願っております。 熊川 忠
- ◆誕生日祝のカード有り難うございました。周囲から喜寿と祝われるのは感謝ですが、一向に年齢相応に成長しないことを恥じております。今年も成蹊で学生になって西洋古典を学んでおります。OvidiusのMetamorphosisを、予習と周辺の勉強に苦勞しながら七十いや八十の手習いを楽しんでおります。ギムナジウムでラテン語やギリシア語を5年、6年と鍛えられたドイツやオーストリアの物理の同業の友人たちが晩学を伝え聞いて、時々激励の手紙をくれるのは有り難いことです。 小林澈郎
- ◆18年度分会費をお送りしますので、お納め下さい。セミナー・ハウスのご報告、有難うございました。 山下幸夫
- ◆大学セミナー・ハウスの益々の発展をお祈り申し上げます。 得田保雄
- ◆毎年会費をお送りできることを、ありがたく思っております。近刊の『知られざる教育者高瀬兼介一生涯教育の先駆者』という自分史も織りませた拙著を謹呈申し上げます。 青木生子
- ◆更なるご発展をお祈り申し上げます。今年も誕生日カードを有難うございます。 慶伊富長
- ◆さくら館の美しいカードをいただき、ありがとうございます。ユニットハウスも使っていた者としては、ユニットハウスが消えることに寂しさを感じます。 森 久
- ◆病気退職後、セミナー・ハウスを利用していただくことはなくなりましたが、かつて玉川大学在職中は、学生達と共に利用させていただいたことを懐かしく思い出します。 甲斐 隆
- ◆東京に出る機会も少なくなりましたので、中々伺えませんが、蠟梅の咲くころに伺えるにかと。それにしてもユニットハウスの多くがもうない、というのは淋しく残念なことです。 小西正捷
- ◆いつもカードをありがとうございます。山梨県立大学も研究室、カフェテリア棟

- ができて、私も学生もやっと居場所ができたように思います。小さな大学の良さを生かして、学生に手が届く温もりのある大学になればと考えています。 山梨県立大学 堀井啓幸
- ◆セミナー・ハウスが教養教育の実践の場としての役割をずっと担いつづけて下さいますようお願いしております。 三浦安子
- ◆お送り申し上げます。恙無く誕生日を迎えられたことに感謝して！ 岡崎 正
- ◆卒業から30年、30回目の千人会費を些少ですが、お届けできることうれしく思います。益々のご発展その役割を果たすこと、心よりお祈り申し上げます。 主婦の友社 青柳総太郎
- ◆今年もお世話になりました。来年もよろしくお願いします。 中野斉子
- ◆新しい年を迎え、益々のご発展を祈り申し上げます。 渡辺忠胤
- ◆さらなる御発展を陰年からお祈り致します。 松山正男
- ◆さくら館開館おめでとうございます。新しいセミナーハウスの活動にご期待しております。 山梨学院大学 海老沢信一
- ◆さくら館の竣工おめでとうございます。消えゆくユニットハウスも思い出いっぱい。 小谷正博
- ◆90歳になりました。飯田先生を偲び、貧者の一灯を献じます。 上谷琢之
- ◆87歳になりました。大学セミナー・ハウスが国際的な面でも活動されることを期待しております。 北原文雄
- ◆新装なった「さくら館」に宿泊できる日を楽しみにしております。 中村正一
- ◆長い間お訪ねしていませんが、ますますのご発展、慶賀に存じます。 高松正昭
- ◆ご案内ありがとうございました。東京学芸大学を定年で退官して、早くも満6年になります。顔なじみの方々も他界なざることが多く、時代は大きく変遷していると実感される毎日です。健康なうちにとB会費2年度分を貧者の一灯としてご送金申し上げます。 宮腰 賢
- ◆バスディ・カートありがとうございます。おかげさまで教会も開拓四年目、地域に浸透してきました。 小幡史朗

(次頁へつづく)

(前頁よりつづき)

- ◆コミュニケーションの場として、ますますの御発展をお祈り申し上げます。
拓植敏治
- ◆「さくら館」はとても快適でした。また、学生たちと利用させて頂きたいと思います。
村上 健

◆昨年3月ドイツ民事訴訟法学会に出席し、旧師・旧友に再会できました。古城の上から眺めるネッカー河が沈みゆく夕日に向けて静かに・ゆるやかに流れていくのを見ながら40年前のことを偲んだことでした。
白川和雄

◆誕生日カードをありがとうございます。写真のさくら館を外からですが、拝見いたしました。2月後半の国立音楽大学イリス合唱団の合宿で、練習場所へ「さくら館」前を通り行く際に新しい香りの建物を目にいたしました。
佐藤公孝

2007年度 宿泊業務報告

◇宿泊利用者数は昨年比4,804名増

宿泊利用者は延29,284名で、前年度(24,480名)に比べて20%増加しました。

◇区別利用状況

会員校の利用は12,137名で前年度(11,642名)に比べ4%増ではありますが、これまでの減少傾向に僅かに歯止めがかかっていると思われます。

一般校の利用は8,482名で前年度(6,066名)に比べ約40%増と大きな伸びを示しています。これは大学だけでなく地域の高校の利用や県外の中学・高校がスポーツの試合や音楽のコンクールなどのために宿泊するケースも増えています。

社会人の利用は8,329名で前年度(6,416名)に比べ約30%増と一般校に次いで伸びています。これは会社の社員研修の利用も増加していますが、スポーツ・教育・環境保護など地域にある様々なグループ・団体の利用が増え、地域にあるセミナーハウスとして認められるようになって来た結果と思われます。

◇年間の宿泊稼働率が30%へあと僅

年間宿泊稼働率は29%で前年度(23%)から大きく伸ばすことができました。しかし、これもさくら館に依るところが多く、他の宿泊棟も必要な改修工事を行いハウス全体の稼働率アップを行わなければならないと考えています。

協力会員校・準協力会員校別利用状況

(2006年4月～2007年3月)

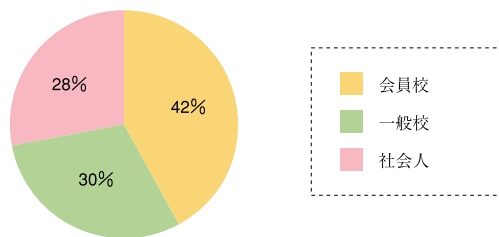
学校名	件数	実数	延人数
中央大学	39	837	1,670
青山学院大学	28	650	856
明星大学	15	367	700
早稲田大学	31	618	660
法政大学	22	413	531
首都大東京	16	444	530
駒澤大学	10	267	468
日本大学	21	354	423
立教大学	17	300	405
お茶の水女子大学	3	374	394
東洋大学	8	268	387
東京学芸大学	16	336	341
東京工科大学	2	298	329
東京農工大学	6	227	264
東京大学	10	229	254
明治大学	10	162	237
芝浦工業大学	3	200	232
国際基督教大学	6	125	221
東京経済大学	3	130	208
慶応義塾大学	8	155	176

施設の利用状況

年度	2005年度		2006年度		2006/2005
	宿泊延人数	構成比	宿泊延人数	構成比	
会員校	11,642人	47.6%	12,137人	41.5%	+4.3%
一般校	6,422人	26.2%	8,818人	30.1%	+37.3%
社会人	6,416人	26.2%	8,329人	28.4%	+29.8%
合計	24,480人	100.0%	29,284人	100.0%	+19.6%

(注) 収容定員 294人(ユニットハウスは期間限定にて使用)
年間稼働日数 358日
年間収容定員 103,752人
年間稼働率 28%

利用グループ構成比



留学生会館に関する報告

留学生会館は、セミナーハウス創立40周年記念の年2005年4月に、国際交流を進め国際社会に広く貢献することを目的としてオープンしたものです。開館当時は5大学に在籍する6か国からの留学生が入居し、25室が満室でした。今年2007年4月で開館2周年になりますが、この間、10の国と地域から来日し12の大学に通う75名の留学生が利用しました。

留学生は勉学の傍ら、地域活動やセミナーハウス主催のプログラムなどに積極的に参加し、地元の方々との交流をしています。この2年間で退館した方々の中には進学した方、日本の企業に就職した方もおりますが、「留学生会館での生活を忘れられない」と言ってくれます。これからもより多くの留学生がこの緑豊かな環境の中でリフレッシュし、知的な閃きが生まれますよう期待し、心を込めたサービスの提供をこころがけています。(留学生会館担当 孫 国鳳)

ご利用ありがとうございました

(平成18年10月～19年3月)

* =同月2回利用

**=同月3回利用

日帰り利用はグループ数のみ
(延べ人数には日帰り利用は含まず)

10月(44グループ、延2,116人)

東洋大学教授 小林修一
 日本大学ローパスカウト研究会
 東京農業大学農友会海外移住研究部
 法政大学教授 平塚真樹
 筑波大学教授 小場瀬令二
 東京大学E.S.S
 上智大学STP*
 日本大学Field Assistant Network
 武蔵工業大学教授 鈴木勝正
 中央大学教授 砂川 浩
 早稲田大学教授 渡辺仁史
 青山学院大学寺東ゼミ
 学習院大学フランス会部
 東京学芸大学助教授 腰越 滋
 中央大学カウンセリング実習
 日本大学教授 倉島 隆
 法政大学稲増ゼミ
 中央大学教授 甲斐義幸
 第33回国際学生セミナー
 一橋大学放送研究会
 一橋大学淡成会
 共立女子大学教授 平石妙子
 東京薬科大学キャンプ7班
 都留文科大学講師 東由美子
 サレジオ工業高等専門学校
 第16回大学職員セミナー
 百人町教会
 うたの森
 学習院大学OB
 国際環境NGO FoE Japan
 日本ユネスコ協会連盟
 (株)オザム*
 国際友和会世界大会
 日本電気通信システム(株)
 コニカミノルタ労働組合八王子支部
 ケル(株)
 新日本機械工業(株)
 (株)ノジマ
 T-Bone Squares
 (個人利用)
 芝浦工業大学名誉教授 十和田知三
 鹿児島大学大学院連合農学研究所
 (日帰り利用)
 オリパスメディカルシステムズ(株)
 地域づくりインターンの会
 帝京科学大学教授 別府敏夫

11月(56グループ、延1,828人)

青山学院大学雑誌編集部
 駒澤大学マスコミュニケーション研究所
 青山学院大学グリーンハーモニー合唱団
 早稲田大学教授 大塚英明

法政大学教授 菅沢龍文
 法政大学CLS
 中央大学教授 永松京子
 青山学院大学青山キリスト教学生会
 東京学芸大学経済学教室
 聖心女子大学講師 小城英子
 アイセック早稲田大学委員会
 立教大学教授 尾崎俊哉
 早稲田大学教授 後藤春彦
 立教大学講師 空閑厚樹
 日本女子大学附属高等学校
 拓殖大学教授 新田日夏実
 五反田ファイターズ
 公開セミナー古田武彦先生を囲んで
 亜細亜大学国際文化局
 玉川大学教授 山口栄一
 桑沢デザイン研究所
 解体研究会
 地域づくりインターンの会
 愛知大学
 バイオマテリアル若手研究会
 オリエンテーリング部
 穂高シニアリーグ
 東京都立新島高等学校太鼓部
 日本キリスト教団阿佐ヶ谷教会地の塩会
 慧星夏の学校
 (株)ベストグループ
 本田技研労働組合研究所支部
 アイフォーコム(株)
 どんぐりサークル
 国際環境NGO FoE Japan
 富士ゼロックス多摩(株)
 大東建託(株)
 (株)日立国際電気通信事業部
 (株)船井メディア*
 JR東日本若手社員勉強会
 運動機能研究セミナー
 宮沢賢治読書会
 八王子に学校図書館を育てる会
 東京ヘボンクラブ
 哲学研究会
 (株)太田プロダクション
 桐山岳大グループ
 Seventh Day Adventist教団横浜SDA英語学校
 (株)テラオカ
 (個人利用)
 創価大学スクーリング生
 ルーテル学院大学 鈴木美緒
 大阪市立大学教授 大仁田義裕
 受験生
 (日帰り利用)
 中央大学国際関係法研究会
 帝京科学大学教授 別府敏夫
 四季の植物誌
 (個人利用)
 法政大学教授 平塚真樹
 法政大学教授 小椋正立
 フィールドアシスタントネットワーク
 アイセック慶應義塾大学湘南藤沢委員会
 明星大学助教授 小貫 悟
 武蔵大学教授 川島浩平

12月(57グループ、延1,683人)

法政大学教授 相田利雄
 中央大学教授 栗原 世
 慶應義塾大学経済学部吉野直行研究会
 日本女子大学教授 小塩和人
 首都大学東京助教授 松阪陽一
 早稲田大学教授 天児 慧
 横浜国立大学助教授 吉田圭一郎
 日本大学スカウト研究会
 日本大学教授 湯浅正敏
 早稲田大学教授 河西宏祐
 青山学院大学航空部
 工学院大学教授 遠藤和義
 早稲田大学教授 安在邦夫
 立教大学助教授 有馬賢治
 東京大学教養学部学生自治会
 早稲田大学教授 守口 剛
 日本大学教授 小林 晃
 日本大学教授 倉島 隆
 桜美林大学教授 岩井清治
 早稲田大学教授 山本武利
 国際基督教大学和太鼓部
 駒澤大学教授 谷敷正光
 NPO法人 Lively
 アイセック一橋大学委員会
 社会学合同セミナー
 一橋大学教授 蓼沼宏一
 ICU高等学校
 八王子高等学校
 共立女子大学教授 阿部圭子
 天文冬の陣
 国際物理オリンピック代表候補者合宿
 学習サークルたんぽぽ会
 早稲田ゼミナール医進塾
 (株)フォース
 大東建託(株)
 コニカミノルタ労働組合八王子支部
 国際環境NGO FoE Japan
 (株)テラオカ
 (株)オザム
 トヨタ西東京カローラ(株)
 文学教育研究者集団
 AITC
 (個人利用)
 大阪市役所 根来譲二
 中央大学 吉原久世
 明星大学スクーリング生
 (日帰り利用)
 八王子リトルリーグ
 八王子ワイズメンズクラブ
 東京女学館大学教授 市川節子
 帝京科学大学教授 別府敏夫
 歌唱クラブ 沼崎潔子
 バンタン映画映像学院 折田組
 (個人利用)
 青山学院大学教授 西澤宗英
 工学院大学教授 吉田偉郎
 首都大学東京生命科学コース
 青山学院大学教授 佐久間康夫
 日本女子大学教授 鶴養美昭
 電気通信大学助教授 鈴木雅久
 駒澤大学教授 瀬戸岡紘

1月(28グループ、延634人)

日本女子大学教授 坂田 仰
中央大学助教授 平野 健
関東信越地区高専冬季地区交流会
東京都立小山台高等学校
ものづくり大学助教授 三原 斉
群馬県立榛東中学校サッカー部
NPO法人アカー
一橋大学高尾ゼミ
日本学生オリエンテーリング連盟
第17回大学職員セミナー
連星形成研究会
(株)スーパーアルプス
ツリーマスタークライングアカデミー
(株)教保情報システムズ
(株)オザム
山水グループ
日帰り利用
マレーシア留学生会
帝京科学大学教授 別府敏夫
エコ・ネットワーク八王子
ダイエーユニオン
ツリーマスタークライングアカデミー
■ 2月(62グループ、延1,883人)
早稲田大学教授 保崎則雄
創価大学教授 長谷部秀孝
青山学院大学教授 白井邦彦*
中央大学ゴスペル同好会
早稲田大学教授 喜多明人
青山学院大学教授 寺東寛治
大妻女子大学講師 佐藤洋一
武蔵工業大学学生団体連合会
東京外国語大学教授 渡邊啓貴
東京外国語大学教授 栗屋利江
中央大学混声合唱団
中央大学混声合唱こだま会
日本大学雄弁会
千葉大学教授 武蔵武彦
早稲田大学教授 内田勝一
日本大学助教授 代田剛彦
早稲田大学教授 吉野 孝
法政大学教授 八幡成美
お茶の水女子大学ミュージカルカンパニーMMG
明治大学関ゼミナール
中央大学演劇研究会
東京大学教授 北岡伸一
青山学院大学青山キリスト教学生会
法政大学助教授 上西充子
東洋大学
日本大学教授 信夫隆司
アイセック東京大学委員会
桜美林大学教授 高橋真義
中央大学教授 横湯園子
明治大学教授 竹下俊郎
アイセック慶應義塾大学湘南藤沢委員会
法政大学教授 ジェフ・キング・ハベル
(社)学術・文化・産業ネットワーク多摩
国立音楽大学女声合唱団アンジェリカ
聖学院大学キリスト教センター
宇都宮リトルリーグ
東京外国語大学・AA研・科学研究費特定領域プロジェクト『資源人類学』

国立音楽大学イリス合唱団
学校法人 立志舎
MOVE起業部
日本ライフセービング協会
(株)オザム*
カトリック教会新求道共同体
国際環境NGO FoE Japan
NPO法人 RBAインターナショナル
工学院大学同窓会
八王子カルチャーセンター
万国デフ・バプテスト福音伝道協会
都市造形研究所
ウチダユニコム(株)
(社)日本POP広告協会
山水グループ
(株)教保情報システムズ
(株)テラオカ
個人利用
秋元研修会
都市造形研究所
サミル教会
日帰り利用
四季の植物誌
板橋区立エコポリスセンターこどもエコクラブ
八王子リトルリーグ
多摩プレーパーク連絡会
■ 3月(91グループ、延2,559人)
早稲田大学教授 森本豊富
日本大学教授 川又 祐
恵泉女学園大学KGA
桜美林大学教授 岩井清治
駒澤大学合唱団
東京学芸大学大学院英語教育
法政大学教授 清水幹夫
東京学芸大学助手 鴨川 仁
中央大学法学部OB会
東京工科大学吹奏楽団
法政大学E組宿舎
日本大学教授 広田照幸
東京経済大学文化会本部
慶應義塾大学助教授 金 正勲
明星大学教授 水野文夫
慶應義塾大学講師 井上英之
埼玉大学教授 伊藤 孝
東京大学建築学科
立教大学教授 疋田康行
早稲田大学芸術学校セミナーハウスワークキャンプ
青山学院大学寺東ゼミ
法政大学鷺見ゼミ
青山学院大学教授 平澤典男
電気通信大学助教授 寺田 実
千葉大学教授 工藤秀明
ICU祭実行委員会
駒澤大学教授 川本 勝
創価大学教授 犬塚正智
学習院大学輔仁会音楽部大学女声合唱団
東京農工大学助教授 朝岡幸彦
早稲田大学教授 深川由紀子
東京大学教授 末廣 昭
KYK(恵泉女学園友愛共育会)
青山学院大学中澤ゼミナール

青山学院大学日中友好フリーバード
千葉大学炭焼きの会
明星大学助教授 露木恵美子
明治大学教授 大胡 修
中央大学教授 田中拓男
日本大学教授 倉島 隆
青山学院大学教授 高木誠一郎
青山学院大学教授 土山實男
東京学芸大学松川研究室
電気通信大学助教授 阿部公輝
慶應義塾大学教授 植村栄治
中央大学教授 滝田賢治
第46回大学教員セミナー
一橋大学教授 渡辺 治
UTOPIA
神戸大学建築学科
日本ラクロス協会
人間工学会システム大会
松の木子ども会
古川高等学校吹奏楽部
現代と経済
桐朋中学校
桐朋高等学校
アチストの会
東京聖栄大学
全日本学生吹奏楽連盟
都留文科大学教授 三井須美子
東北高等学校
サレジオ工業高等専門学校放送部
高千穂大学教授 佐野美智子
サイエンスキャンピング同窓会
春季サイエンスキャンピング
青森県立八戸高等学校硬式野球部
サレジオ工業高等専門学校
青山学院女子短期大学助教授 輪島達郎
日本行動計量学会春のセミナー実行委員会
ツリーマスタークライングアカデミー
国際環境NGO FoE Japan
NPO法人森づくりフォーラム
教会と国家学会
八千代コントラクトブリッジ
日本GWT協会
(株)オザム*
日本山村硝子(株)東京工場
(株)テラオカ
専修大学たまごの会
NPO法人立川マック
文学教育研究者集団
(株)アド
(株)沖センサデバイス
個人利用
明星大学スクーリング生
日帰り利用
ツリーマスタークライングアカデミー**
法政大学講師 岡井崇之
国際炭焼協会
アジア科学教育経済発展機構
四季の植物誌
帝京科学大学教授 別府敏夫

セミナーハウスを利用して

昨年10月7日～19日（12泊13日）の長期間、日本友和会の80周年を機に国際友和会の総会（4年毎に開催）が当ハウスを会場に開かれました。アメリカ・ヨーロッパを始め中東・アフリカ・アジアと多くの国々から100名を越す参加者が集まりました。

友和会とは、「Fellowship of Reconciliation・和解の仲間」略称はFORと呼び、1914年に英国のクエーカー教徒によって創設された国際的非戦平和団体です。日本では80年前に活動が始まり、戦争で一時的に休止していましたが1949年から活動を再開、その中には当ハウス設立発起人の上代たの先生（日本女子大学元学長）も会員でした。また当ハウス設立の提唱者であった飯田宗一郎氏も熱心なクエーカー教徒であったことも、国際会議の準備委員長として大変な労を執られ、今回のレポートを執筆された田中良子さんは良くご存知であったことは、不思議な縁であったと思います。以下田中良子さんのレポートをご紹介します。



日本友和会創立80周年の今年、国際友和会が日本で総会を開催することが決まり、その会場として八王子セミナーハウス（大学セミナーハウス）が選ばれた時、私は内心深い感動を覚えました。ここでならきっと出来る。なぜなら平和を願って努力されたクエーカーの先人方の援けと祈りの支えが確信出来たからです。単に国際会議をするだけでなく、私にはこの時、参加した人達を通し新たな活動が始まって行くことへの確信がありました。そして何よりも素晴らしかったのはセミナーハウスの職員の方達でした。その親切さ、骨惜しみなくお世話くださる一人ひとりのその対応は実にありがたく思いました。言葉も生活の仕方も異なる海外からの60余名の人達が引き起こす様々な問題、早朝や深夜の到着や国際電話等々も嫌な顔一つ見せず対応して下さいました。

セミナーハウスも開館して40年を越え、周囲に植えられた記念樹も大きくなり、その自然環境も集う人々の心を癒し、和ませてくれました。到着の遅い海外からの参加者を待っている私に宿直の方が「月が綺麗ですよ」と声をかけて下さいました。本当に久々に見る澄んだ夜空に見る美しい月でした。ゴミのリサイクルや炭やきなど、ここに働く方達には豊かな文化を楽しむ心があるのを感じました。茶道を海外の方達にご披露するプログラムの時、退職された元職員の方がボランティアとしてご協力下さいました。施設を貸す者借りる者という関係を越えた、ここには人と人との出会いと交わりがありまし

た。

肉食主義の人、イスラムのラマダン（断食月）のために陽のある間は食事の出来ない人に対しての心配り、様々な国から集う人達に毎回美味しく食べられる豊かな食事もありがたく思いました。今回、私たちが利用したのを機に国際化し、日本人だけでなく世界中から人々が人に優しいこのセミナーハウスに集い、良き研修と交わりの時に恵まれることを期待いたします。セミナーハウスの創設に尽力された上代たの先生は、終生世界平和のために努力された方であり、学ぶことと人を大切にすることをいつも私達に教えて下さいました。

今回の国際会議の会場にセミナーハウスが決定し実現したのは、多くの先達の祈りとお導きのあったことを感じありがたく思っています。今後、セミナーハウスが素晴らしい働き手の方達によって、国際的な研修施設として多くの人々に親しまれ発展して行かれることを心から期待しています。本当にお世話になりました。ありがとうございます。



平成19年度 開催セミナー

主催セミナー	日 程	テ ー マ
第1回FDセミナー	07/5/26(土)	FDの新しい方向性
第1回大学人コミュニケーション力養成セミナー	07/6/29(金)～30(土)	輝く大学を創る原理原則を考える 一元気にするコミュニケーション力とは
第47回大学教員セミナー	07/9/11(火)～12(水)	未 定
第18回大学職員セミナー I	07/9/14(金)～15(土)	激動の時代に輝く大学を創る ー職員の役割を問うー
第34回国際学生セミナー	07/9/29(土)～30(日)	実現するか、東アジア共同体(仮題)
第18回大学職員セミナー II	07/10/26(金)～27(土)	激動の時代に輝く大学を創る ー職員の役割を問うー
第4回古代史セミナー	07/11/10(土)～11(日)	日本古代史
第18回大学職員セミナー III	07/12/ 7(金)～ 8(土)	激動の時代に輝く大学を創る ー職員の役割を問うー
第2回大学人コミュニケーション力養成セミナー	08/1/11(金)～12(土)	輝く大学を創る原理原則を考える 一元気にするコミュニケーション力とは
第48回大学教員セミナー	08/3/ 3(月)～ 4(火)	未 定
日中文化交流セミナー	08/3	日本・中国の文化について
自然セミナー(4回)	07/3/31(土)、07/8/5(日) 07/11/23(金)、08/2/3(日)	四季の植物誌 ～親子で学ぶ自然観察～

☆詳細が決定次第、ホームページでご案内致します <http://www.seminarhouse.or.jp>

☆セミナーに関するお問合せ・お申し込み

TEL.042-676-8532 FAX.042-676-1220 E-Mail:kikaku-koho@seminarhouse.or.jp

○寄贈図書 (2006年10月～2007年3月)

『21世紀のキャリア開発』『21世紀の生涯学習』
宮崎冴子様
『知られざる教育者 高瀬兼介』 青木生子様
『ドイツ観念論に於ける人間存在の把握』『詩と経験
ーワーズワースからD.トマスまで』 学習院大学様
『ビールの少年時代』 大同生命国際文化基金様
『吉阪隆正の迷宮』 ぐるぐるつくる大学セミナー様

『東京建築ガイドマップ』 倉方俊輔様
『ル・コルビュジェのインド』 北田英治様
『地獄の一三六六日ーポルポト政権下での真実ー』
大同生命国際文化基金様

○寄付 (2006年10月～2007年3月)

100,000円 国際友和会様
タペストリー 飯高京子様



Plain living and high thinking

制 編 発 行 発 行 発 行
作 集 人 行 行 行 行
|| 集 || 八 王 子 子 子 子 子 子
|| ア 八 王 子 子 子 子 子 子
|| ト 王 子 子 子 子 子 子
|| リ 子 子 子 子 子 子
|| エ 子 子 子 子 子 子
|| イ 子 子 子 子 子 子
|| チ 子 子 子 子 子 子
|| の 子 子 子 子 子 子

2007年5月発行

セミナーハウス・ニュース No.172

発行 財団法人 大学セミナーハウス

館長室から 休眠打破

今年は、暖冬の影響で、桜にも「異変」が起きた。
昨年は1月25日に沖縄の八重岳で満開の寒緋桜を満喫した。今年も2月1日に同じ場所を訪れたが、満開前の不揃いな姿を「楽しむ」結果になった。開花する気配のない木もあった。セミナーハウスの枝垂れ桜も、例年の「冴え」を見せてくれなかった。



「暖冬ならば桜の開花が早い」と漠然と思っていたが、それ程単純ではないことを知った。桜の木が冬の間に「十分な寒さ」を経験して、「休眠打破」が起きれば開花するのだという。今年は暖冬のために「寒さ」が足りず、「休眠打破」が起き難かったらしい。

セミナーハウスでは「さくら館」が開館して1年が経過し、お陰様で年間利用者数が3万人弱にまで回復した。セミナーハウスはこの数年間「十分な寒さ」を経験したので、「休眠打破」が起きたと確信している。これが「開花」につながる様に努力しなければと、気を引き締めているところである。

一年前のこの欄に「河津桜を植えて、美しい桜の林にしよう」と計画してゐる」と記したが、その後佐藤理事長の御配慮で50本の苗木を敷地内に植林することが出来た。御来館の折には、御注目下さい。